

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970200721		
法人名	社会福祉法人東徳会		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	栃木県足利市稲岡町1064		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな山の麓に位置し、季節の移ろいを五感すべてで感じることができる。敷地内には小さな牧場があり、ミニチュアホースがのんびりと草を食べていたり、犬や猫がいたり池にはカモが泳いでいたりする。池の周囲には東屋や散歩コースがあり、地域の人達も気軽に利用されており誰もが驚くほど環境が素晴らしいのが特徴です。その素晴らしい環境の中で、人それぞれの過ごし方や考え方を様々な角度から支援し、楽しみ・喜び・生きがいを見つけ、自らが生きたいと願う...そんな環境づくりや支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、足利市と佐野市の境にある自然の環境に恵まれた山麓に位置している。敷地内には、東屋や池がある他、ミニチュアホースのペアが飼育されており、地域の方が散歩の途中に立ち寄りたり、母子が遊びに来ており、入居者とも自然に交流が行われている。職員全員で作り上げた「笑顔と優しい手」を理念とし、入居者への声かけや対応は優しく、日々その実践に向けた支援が行われており、職員間の連携も良い。人材育成にも力を入れており2ヶ月毎の内部研修の実施や職員一人あたり、年1回の外部研修会への参加を目標としており、質の向上を目指し研鑽を積んでいる。住宅地からは離れた場所に位置しているが、自治会に入会し、地域住民とは各種イベントを通して関係づくりに努めており、距離を感じさせない切れ目のない交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でつくりあげた「笑顔と優しい手」を事業所理念としている。その他、法人理念「長命から長寿へ」や職員行動訓、自戒などを掲げ日々取り組んでいる。	前回の外部評価後に、全職員で話し合い、「笑顔と優しい手」を事業所の独自理念としてつくりあげている。職員は申し送り時や会議時等を利用して理念の共有に努めており、常に理念に立ち戻り、理念の実践に向けた支援に取り組んでいる。	開設から8年目を迎え、地域との関係が密接になってきていることから、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域を意識した事業所としての理念づくりに取り組む事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運動会、文化祭、一斉清掃などに参加。敷地内には池や東屋、ミニチュアホースを飼育している為、近所の方が気軽に訪れ挨拶や会話をする機会があり。幼稚園、小・中学校との交流もあり。	自治会に加入しており、運動会や文化祭等の地域での行事に参加するとともに、法人内で行われるいも煮会や秋祭りに地域住民にも参加をしてもらっている。また、地域住民が散歩の途中で敷地内にある東屋で休憩したり、法人で飼育しているポニーを母子が見に来るなど、自然に地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてメンバーへは日頃の様子や支援した事などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催。入居者、職員状況や活動報告をし評価や助言を頂く。外部評価の結果を報告し、指摘された点を話し合いサービス向上に活かしている。	会議はほぼ固定のメンバーで定期的開催されている。会議では入居者の生活状況やホームの運営状況や取り組み事例の報告、外部評価結果についての報告等を行い、参加者から出された意見や助言をサービスの向上に活かしている。	外部評価結果に基づき目標達成計画を作成して、会議の中で取り組み状況等の報告を行っていくことに期待したい。また、議題によっては消防や警察等の関係者に参加を依頼するなど、更に議論が深まることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂く以外にも、電話や市役所への訪問等で随時連絡や相談をしている。	市担当職員は運営推進会議に参加しており、ホームの状況を把握してもらっている他、助言をもらっている。また、市担当職員に電話や訪問により、制度上の相談やホームの実情を伝えており、連携に努めている。市と共同での事業などは行っていない。	今後はホームで培われた認知症支援の知識や技術を活かして、認知症介護相談や地域へ向けた認知症の理解促進のための事業を市と共同で実施していく様な取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の勉強会やマニュアル等で周知している。玄関や居室等には鍵をかけず、チャイムや鈴等で工夫をし、拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは、内部・外部研修会の機会を利用して、職員に身体拘束をしないケアの周知に努めている。日中、玄関は施錠せずチャイムで察知している。不穏な入居者には見守りや声かけにより対応しており、一緒に歩いたり、家族に電話をかける等、入居者の不安や混乱を取り除くよう支援に努めている。	

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の勉強会や資料等で学んでいる。事業所内の虐待防止は勿論、家族と利用者の関係を捉え、コミュニケーションを多く取り様子観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加をして学ぶ事が出来た。必要性があると思われる時には話し合いをして、少しでも活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用い詳細説明をゆっくり行っている。説明後は不安や疑問点を聞き、納得を得た上で手続きを進めている。今までトラブルはないが、今後も注意を払っていきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族には運営推進会議に参加していただき、外部の方を交えて話しを頂いている。玄関には目安箱を設置。利用料支払い時には、家族へ1ヶ月間の状況報告をし、意見要望を聞いている。	家族の来所時や運営推進会議時にも参加をしている家族に意見や要望の確認をしている。家族会も発足しており、意見や要望を表しやすい体制を築いている。	家族に対して定期的にアンケート調査を行うなどして、家族の要望及び満足度等の把握に努め、運営に活かしていく取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	多くは、毎日の申し送りの中で現場の意見を聞いている。その都度考えや意見、提案を聞き連絡帳を活用する事で質の確保、働く意欲の向上へつなげている。	法人内の管理者会議で意見を述べる機会がある他、定期会議や連絡帳等で運営や支援方法に関する職員の意見や提案を確認している。管理者は異動後間もないが、職員の意見を前向きに聞く姿勢が感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや貢献度評価シート、アンケート、面接等を行い環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて受講すべき研修プログラムがあり、それに沿った“一人一研修”。法人内では2ヶ月に1回の勉強会を開催。(年に数回外部講師を招く)研修広報、資料レポートの掲示、回覧をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム交流会に参加。他施設の見学交流も行い、サービスの向上やネットワークづくりが出来てきている。足利介護支援専門員連絡会にも加入しており、講習等に参加している。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて面会を行い、お互いリラックスした状態で話しを伺いアセスメントしている。本人の立場になって理解を深めるようにしている。家族や関係者からも意向を聞き関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所待機申込みの段階からゆっくり話しを伺える場を作っている。困っていること、希望していること等を相手の立場になり思いを理解するよう努めている。その家族自信を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の実情や要望を聞き必要であると考えられる支援の情報提供は勿論、事業所内で抱え込まず、紹介や連絡相談は必要に応じて随時行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事のほぼ全般を一緒に行って頂いている。利用者や職員の衣類のほつれを縫って下さったり、編み物をしてプレゼントされたりと共に過ごし、支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を中心として各種行事への協力や参加。状態変化時は、家族へ報告し一緒に考え協力を頂く。状況により、家族の付き添いで受診。ケアプランは家族支援を盛り込んだ計画を立てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話利用や以前から利用されていた化粧品店の訪問員さんの来訪がある。馴染みの人との面会は逢いに行ったり、来てもらったりと家族の協力もあって行われている。	デイサービスを利用している知人がホームに立ち寄っている他、墓参りに出かけたり、親戚が面会に来たりと、入居者の馴染みの人や場所との関係は継続している。知人や友人と訪問し合う関係は比較的少ない状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を考慮しタイミングをみて仲介に入ったり、孤立してしまいがちな方へはサポートに入っている。会話を中心に、ちょっとした相手への協力で支え合いの関係が築けている。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている家族には、引き続き家族会のサポートメンバーとして参加して頂き、つきあいを継続出来るような体制をとっている。退所後も電話や手紙等で経過の連絡や相談を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や好み、性格等を家族の協力もあり随時把握に努めている。把握が困難、不確かな場合は関係者で本人の視点に立った意見を出し合い話し合っている。アセスメント方法や様式を随時検討している。	入居時に本人及び家族から、一人ひとりの思いや希望を確認している他、センター方式のアセスメント等も活用しながら把握に努めている。また、毎日のケアの中から入居者の表情や言動から思いを察し、支援に取り組んでいる。意向の表出が困難な入居者へは、常に利用者の立場に立って考え、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込みの際に、生活歴やサービス利用状況を確認し、契約時には更に細かな情報収集をしアセスメントしている。利用されてからも、家族等から細かな情報提供を引き続き得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、担当者会議等で把握し意見交換。居室担当者を中心に職員の気づきから“もっと出来る事”を発見する流れが出来ている。総合的な把握をし、その方に合った生活が出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、主治医からの指示や助言を踏まえ作成している。月1回の職員会議、担当者会議や毎日の申し送り等で出た意見やアイデアを反映して作成している。	入居者及び家族の意向や医師や看護師等の助言も参考にして、担当者会議や申し送り時の話し合いにより、それぞれの意見が反映された介護計画を作成している。職員の担当制を取っており、毎月のモニタリングの他、入居者の状態に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな気づきの視点を持ち、その都度職員間で話し合い実践や介護計画の見直しを行う。職員間の連絡帳や医務連絡帳にて気づきや工夫、アイデア等を書き込み情報共有。実践と個別記録の記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの相談を受け法人全体で対応。状況により本人や家族の意向で併設特養へ入所される方、デイサービスやショートステイから入所される方がいる。馴染みの職員が継続的に支えて支援に努めている。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な大正琴や華道のボランティア、法人内週2回の演舞慰問。近隣の小中学生の体験学習や幼稚園児の慰問、実習生の受入も随時。当会社運営の専門学生の定期慰問。地域の運動会や文化祭にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医がいる場合は、そちらを優先し家族と共に支援。事業所の協力医療機関とは、こまめな報告連絡相談等を行い、必要に応じて往診も受けられる適切な医療を支援している。	殆どの入居者は協力医療機関をかかりつけ医としており、併設特養への往診の際にホームに寄ってもらう事もある。かかりつけ医への受診の際には家族へ付添いをお願いしているが、職員が同行する場合も多い。看護師の協力により、入居者の健康に関する記録物は1冊にまとめられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置。毎日の申し送りを中心に細かな気づきを介護職と話し合い健康管理をしている。看護職は利用者は勿論、職員へのアドバイスや相談も受けスーパーバイズをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供を行い、定期的な面会で関係者から情報を得て病状把握。具体的な入退院や経過については医師、家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等で話し合いをし、早期にスムーズな退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期カンファレンスで家族、医師、職員等で話し合いを繰り返し行っている。終末期に近い方に関しては、こまめに話し合いをしてその時々本人、家族の意向を確認し今後の事業所の対応を考えている。情報は職員間で全員が共有出来るようにしている。	入居の際に、本人及び家族と重度化や終末期のあり方や希望について話し合っているが、確認書は取り交わしていない。ホームでは、看護師の助言や協力により看取りの経験もあるが、更に研修や勉強会を通じて看取りやターミナルケアの支援に取り組んでいく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルや資料を準備している。定期的ではないが、法人勉強会として開催したり、随時看護師から指導や助言を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所とは協力体制を築き、一緒に訓練を行う事もある。事業所の避難訓練は利用者、職員で定期的に行いその都度利用者の状況で誘導方法を考えている。	年2回消防署の立会いにより消防訓練を行っている。また、ホームでは昼夜を想定した非難訓練も3ヶ月毎に行っており、今後は毎月実施していく予定である。消防署への直接通報装置の他、その際には職員へも自動的に連絡が行くシステムになっている。スプリンクラーの設置は次年度に予定している。	スムーズな避難誘導を行うためにも、災害時における地域との協力体制の構築にむけた取り組みに期待したい。また、運営推進会議に消防署員や消防団の参加を依頼していくことにも期待したい。

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。個人情報等の取り扱いに注意が必要な物は事務所で管理している。	普段の声かけは、馴れ馴れしくならないよう敬語を使用している。入居者一人ひとりの今まで歩んで来た経験を敬い、排泄時の声かけや、誘導等もさりげなく支援している。個人情報等の書類は事務所に保管している。各部屋には、名前・写真・生年月日の記載がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の認知症状等により説明やコミュニケーション方法を工夫。思いや希望を表出できるように、また自己決定する場を多く取り入れ一日の過ごし方、入浴日、外出の参加等は個人の希望に沿って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を逸脱しない範囲で、できる限り個々のスタイルやペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長期に出張美容店を利用している。個々の希望等を書き込んだファイル等で情報共有し、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作りやテーブル拭き、配膳下膳や食器洗い、食器拭き等を一緒に行っている。出前やお寿司購入の外出は楽しみにされている。好みに応じてメニュー変更もする。個々の盛り付けにも気を配っている。	食材の宅配を利用して、職員がホームの台所で調理している。入居者は職員と共にテーブル拭きや下膳、食器拭き等を行っているが、食事づくりには参加していない。以前の餅つくりや団子づくりの写真には生き生きとした入居者が写っていた。出前や外食も楽しみごとになっている。	生活暦や本人の希望等から、今、本人が出来ることや出来ない事をアセスメントし、食事が楽しみなものになる様、一人ひとりの力を活かした取り組みの検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェック。メニューはカロリーや栄養バランスに配慮されたもの。必要量の確保が難しい方へは、主治医と相談のもと補助食品等で支援。月一回の体重測定や定期採血にて健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の力に合わせた口腔ケアを行い清潔保持に努めている。夜間は入れ歯洗浄除菌をし、必要に応じて歯科受診も行う。		

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の残存能力を活かせるような、その方に合った方法やペースで行っている。排泄パターンや排泄量等を記録し、習慣を活かした最適な排泄がされるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンやリズムの把握に努め、声かけや誘導をさりげなく行っている。オムツの使用を出来るだけしない様な支援に努めているが、少数の起立困難な方には止むを得ず使用している。排尿・排便は記録しており、自立している方からは自己申告してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い状態の観察と管理をしている。水分、食事量の確認と一日1回定期的な運動を行っている。10時には乳製品の水分補給や補助食品の活用で薬に頼らず、自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望で入浴する事を基本。入浴の苦手な方へは誘い方や職員が交代して工夫し清潔保持に努めている。曜日の指定は無いが、二人介助で入浴される方が居る為時間帯はほぼ決まっている。	毎日14時頃から、職員の支援により週2～3回希望により入浴している。拒否傾向のある人には、機嫌を図りながら声かけをしているが強制はしないようにしている。柚子湯等の季節湯や入浴剤などを入れて入浴を楽しんでいる。起立困難な入居者には、職員2人で支援する事もあり、今後の課題ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない範囲で自由に休息、昼寝等をして頂いている。それぞれ自然なリズムが出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等については医務連絡帳等を使用し情報共有。誤の事故予防は常時検討。体調等変化時は速やかに家族、医師へ連絡。血圧測定テーターは定期的に主治医へ報告。服薬による状態観察は随時施行。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、散歩、買物、レクリエーション等で楽しんで生活できるよう支援している。本人の出来る事が役割となる事で、張りのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝のゴミ捨てで散歩を兼ねて戸外へ。気分が玄関より出られる方には、その都度付き添い。天気の良い日には東屋や玄関先にてお茶や夕涼みをしたりする。定例外出や希望時の買物の付き添いの他、家族の協力で本人の希望場所へ出掛けたりしている。	年間の行事や週間の外出の他、天気や体調を見計らいながら、近隣を散歩したり、敷地内の東屋等に出かけており、地域の住民との交流が自然に行われている。買い物や外食も楽しみごととなり、外出支援に努めている。	

グループホームほたる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に応じてお金を所持される方もいる。外出、買物の際には自由に使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規則等は無く自由に行えるようになっている。電話の希望があった場合は適切な判断にて、かける事の支援をしている。年賀状や定期的な絵手紙が届く方がいる。以前は要望にて、ポストへの投函も支援していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光、匂いが無いよう配慮。食事の席は居心地良く過ごせるよう配置。掃除の時間には窓を開け放ち自然換気で匂いやよどみを取り、温度や湿度の調節。ホール、玄関、居室には花を飾り、季節感溢れる空間づくりを心掛けている。	居間や食堂を中心に南東向きに居室が配置されており、共用空間は広く、畳のスペースもある。壁面には外出時やイベントの写真を掲示している他、季節の花や季節にちなんだ飾り付けを行っている。掃除は入居者と職員が一緒に行っており、換気や湿度にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に大きなソファを配置しており、ホールには腰を下ろせる大きな畳がある。気の合う利用者同士でテレビを観たり、畳に腰を下ろしお独りの空間を保てたりと、くつろぎ易い場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み物品に大きな制限は無く、使い慣れた物を持ち込んで頂いている。家族と相談し必要な物品、好みの物を配置しシロケーションダメージを防ぐ事を心掛け、居心地良い空間づくりに努めている。	各々が使い慣れた筆筒やテレビ、冷蔵庫等を持ち込んでおり、家族の写真や本人の作品等が飾られ、居心地よく過ごせるよう、本人の希望や家族と相談しながら支援している。ベッドと洗面台はホーム側で用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失敗をとがめない声掛けを基本に自立精神を支えている。危険防止の福祉用具活用は勿論、個別に道具を整備する事で自分から動き出し、残存機能を活かせる環境づくりを常に考えている。		